

第六十七回フォト句優秀作品（28年11月14日）



白鳥が黒鳥となる夜明け時 松田昌康

寸評：屈斜路湖の明け方の美しい瞬間を捉えた写真だ。写真負けしないように、句の推敲に努力したい。



コスプレは

文明開化の

昔から 三 春

寸評：写真も句も一見古臭い感じがするが、ロシア人の旅姿を見てコスプレに想到する感覚は新しい。



炎天下心静かに涼を呼ぶ 池田 隆
寸 評：川畔の宿舎からの外の景色。撮ったアングルは面白いが、涼を呼んでいるのは誰かわかり難い句だ。



網走やむかし監獄いま観光 松田 昌康
寸 評：愉快的な銘柄のT-シャツだ。ふるさと創生の目玉として刑務所しかないのか？一着は買ってみたいが・・・。

秋の日に耐えた人生

懐かしむ 清水 勝

寸 評：さながら自分の人生のように
上下からの圧力に耐え褶曲した地層。
過去を懐かしむ秋の日である。



吊橋がふらりと揺れて

峰もみじ 中村晃也

付け句



今月は新田さんの出題。松戸にある旧徳川家のお屋敷「戸定邸」の写真です。開け放たれた障子、ガラス戸から庭園の風情が偲ばれます。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1) 大の字で我まどろまん夏座敷 | 安藤 晃二 |
| 2) 残り香を外の空気と入れ替える | 中村 晃也 |
| 3) お座敷の四角四面に膝しびれ | 池田 隆 |
| 4) 孫たちが思いのままに穴あける | 矢澤 正二 |

寸評：

- 1) 都会の狭い家に住んでいると広い畳の部屋で転がりたくなる気持ちになります。庭の緑を感じさせる季語夏座敷が利いています。
- 2) 画面には写っていないが、ちょっと色っぽい残り香に着目した点を取り柄。
- 3) 綺麗に掃除をされた座敷にキチンと正座したくなる気持ちと正座を続けると脚が痺れてくる連想をたくみにまとめた句。
- 4) 今どき障子のあるお宅は少ない。ストレス発散のためきれいに張られた障子に思い切り穴を開けたい気持ちを孫の行動で表したもの。